

(5) 甲 信 越



甲信越地域では、景気は新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にあるなか、持ち直しの動きが続いているものの、一部で弱さが増している。

- ・ 鉱工業生産は持ち直している。
- ・ 個人消費はサービス支出を中心に弱い動きとなっている。
- ・ 雇用情勢は感染症の影響により、弱い動きとなっているなかで、求人数等の動きに底堅さが増している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す (は上方に変更、 は下方に変更)。

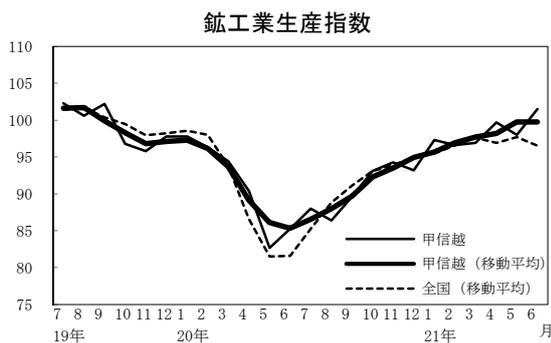
前回からの主要変更点

	前回 (令和3年6月)	今回 (令和3年8月)	
個人消費	このところサービス支出を中心に弱い動きとなっている	サービス支出を中心に弱い動きとなっている	→
雇用情勢	感染症の影響により、弱い動きとなっているなかで、求人数等の動きに底堅さもみられる	感染症の影響により、弱い動きとなっているなかで、求人数等の動きに底堅さが増している	↑

1. 鉱工業生産の動向

鉱工業生産は持ち直している。

4-6月期の鉱工業生産は、「汎・生産・業務用機械」が増加したこと、「電子デバ、電気・情報通信」が増加したこと等により、前期比2.9%増となった。



- (備考) 1. 2015年=100、季節調整値。甲信越の最新月は速報値。
 2. 全国及び甲信越の太線は中心3か月移動平均。直近月は2か月平均。
 3. 甲信越は内閣府にて算出。

域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		1-3 月期	4-6 月期	4月	5月	6月
電子デバ、電気・情報通信	28.9	2.1	1.1	2.6	▲1.6	3.7
汎・生産・業務用機械	24.8	7.0	7.0	8.2	▲2.2	1.4
食品・たばこ	12.0	6.2	—	▲0.8	0.7	—
石油・石炭、化学、プラ製品	10.3	▲0.6	2.9	1.0	▲0.2	▲0.2
鉄鋼業、非鉄金属、金属製品	8.8	5.0	0.5	▲0.2	▲2.9	7.8
鉱工業	100.0	3.6	2.9	2.9	▲1.7	3.6

- (備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。
 2. 4-6月期、6月は速報値。速報値において、化学は医薬品を除いたもの、食品・たばこは公表されていない。
 3. 業種は内閣府にて分類

2. 個人消費の動向

個人消費はサービス支出を中心に弱い動きとなっている。

(1) 地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

4-6月期は前期比1.2%増となった。月別にみると、4月は前月比0.7%減、5月は同2.1%減、6月は同4.3%増となった。

(2) 百貨店・スーパー販売額

百貨店・スーパーは、4-6月期は前年同期比1.6%増(前々年同期比3.1%増)となった。月別にみると、4月は前年同月比4.1%増、5月は同3.4%増、6月は同2.5%減となった。



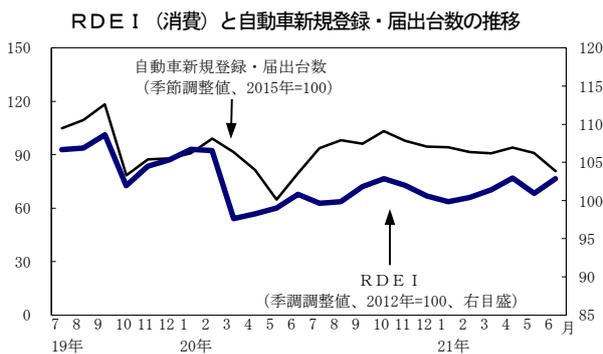
	2021年4-6月	2021年4月	5月	6月
RDEI (消費*1)	1.2	▲0.7	▲2.1	4.3
百貨店・スーパー(*2)	1.6	4.1	3.4	▲2.5
乗用車(*3)	18.8	23.2	45.8	▲1.3
(季節調整値)(*3)	▲3.8	3.4	▲8.9	▲5.6

(備考) 1. 季節調整済前期(月)比 (%)

2. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)

百貨店・スーパーは内閣府にて算出。

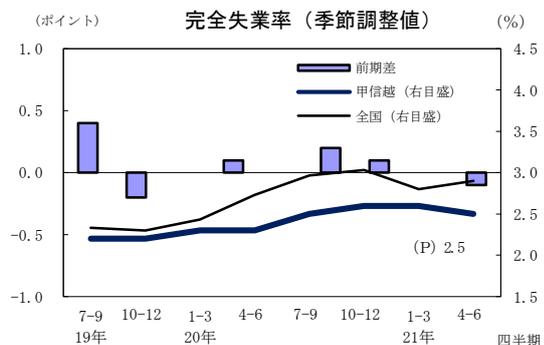
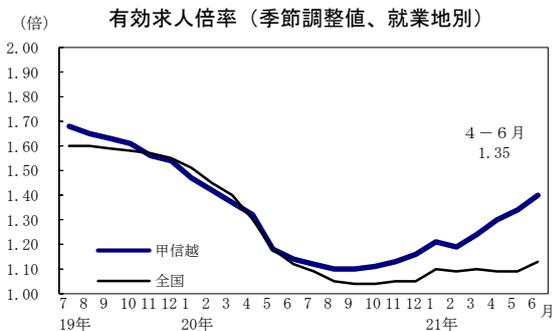
3. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比(%))



3. 雇用情勢

雇用情勢は感染症の影響により、弱い動きとなっているなかで、求人数等の動きに底堅さが増している。

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前期を下回っている。



(備考) 1. 内閣府にて算出、季節調整。

2. 4-6月期の値は暫定値。

(13) 景気ウォッチャー調査 (令和3年7月調査) 景気判断理由の概要

5. 甲信越

(◎良、○やや良、□不変、▲やや悪、×悪)

分野	判断	判断の理由	
現状	家計 動向 関連	□	・旅行業界は一時回復傾向がみられたものの、再度の緊急事態宣言発出により、客の動きが止まって受注も減少している。企業の出張は回復がみられず、団体旅行受注に関しては皆無である。夏休み期間の予約も減少している (旅行代理店)。
		○	・東京オリンピックを自宅観戦するためか、飲物を中心に、買上点数が増加している (コンビニ)。
		▲	・新型コロナウイルスの感染者数が再び増えていることもあり、来店客数もやや減っている。ただし、それ以上に客単価の落ち込みが大きく、やや悪くなっている (自動車備品販売店)。
	企業 動向 関連	□	・夏休み期間に入り、旅行者の体験ワークショップ予約が幾らか増えているが、製品受注はない (窯業・土石製品製造業)。
		○	・4～6月期の景況調査は、製造業の大幅な改善により全体を押し上げている。製造業は海外の半導体需要の増加を受け、電子部品デバイス等を中心に好調を維持している。一方、新型コロナウイルスの影響で、非製造業の改善幅は小さく、業種間格差が更に拡大している (金融業)。
		▲	・新型コロナウイルスの影響が長期化し、自宅から出る人が少ない。木材も不足しており、建築工事の延期が増え、低迷している (建設業)。
		×	—
	◎	・半導体業界は好調である (金属製品製造業)。	
	雇用 関連	□	・7月は、周辺企業の求人募集広告掲載件数が増加している。業種はスーパー、医療、介護、サービス業等である。1～2か月前と比べると、製造業も微増している (求人情報誌製作会社)。
		○	・全体的に新規求人は増加してきており、宿泊や飲食サービス業からも求人が出てきている (職業安定所)。
その他の特徴 コメント		○：猛暑と東京オリンピック効果なのか、エアコン、冷蔵庫、テレビ等の動きが良い (一般小売店 [家電])。 ○：自粛疲れなのか、梅雨明けと同時に観光客が増え、客足が戻りつつある。今月の連休は、入場規制するほどの混雑である。売上も新型コロナウイルス以前の水準には達していないものの、春と比較すれば大幅に回復している (観光名所)。	
先行き	家計 動向 関連	□	・現在、新型コロナウイルスが感染拡大中なので、ある程度収束しないと、この状況は収まらない。ワクチン接種もまだ2～3か月では終わらないと思うので、接種が終わってからはどうか (百貨店)。
		▲	・繰り返される新型コロナウイルスの感染拡大で、さすがにどうしようもない状況に陥りそうである。廃業、倒産が加速するのではないかと (一般レストラン)。
	企業 動向 関連	□	・受注見込みは上向きではあるものの、半導体供給が不透明であり、見込みどおりの受注となるかが不透明である (一般機械器具製造業)。
		○	・この先数か月分の生産量は、ある程度確保できている (電気機械器具製造業)。
	雇用 関連	○	・新型コロナウイルスのワクチン接種が進むため、やや良くなる (職業安定所)。
	その他の特徴 コメント		□：新型コロナウイルスの影響で、東京からの避難所的な意味合いでの別荘需要が続いている (住宅販売会社)。 ▲：新型コロナウイルスのワクチン接種が若年層に進めば、外食需要が戻り、内食にとっては逆風となる (スーパー)。

(D I) 現状・先行き判断D I (甲信越) の推移 (季節調整値)

